

実存主義の展開

2017 年本試

問 5 富の格差をはじめとする様々な不平等を思想家たちは問題にしてきた。次のア～ウは、そうした思想家たちの説明であるが、それぞれ誰のことか。その組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。 33

- ア 敬虔^{けいけん}なキリスト教徒にして人文主義者(ヒューマニスト)である立場から、金銭や富が人間よりも大切にされる社会を批判し、貨幣や私有財産のない理想社会を描く作品を発表した。
- イ 男性優位の文化・習慣が女性に特定の生き方を強いていることを明らかにし、「人は女に生まれるのではない、女になるのだ」と主張して、以後のフェミニズム運動に影響を与えた。
- ウ 自由競争によって生じる所得や地位の不平等は、社会の最も不遇な人々の境遇の改善につながる限りで認められるとする格差原理を主張して、公正としての正義を構想した。

- | | | | | | | |
|---|---|--------|---|-----------|---|------|
| ① | ア | トマス・モア | イ | ボーヴォワール | ウ | ロールズ |
| ② | ア | トマス・モア | イ | ボーヴォワール | ウ | サンデル |
| ③ | ア | トマス・モア | イ | シモーヌ・ヴェイユ | ウ | ロールズ |
| ④ | ア | トマス・モア | イ | シモーヌ・ヴェイユ | ウ | サンデル |
| ⑤ | ア | サン=シモン | イ | ボーヴォワール | ウ | ロールズ |
| ⑥ | ア | サン=シモン | イ | ボーヴォワール | ウ | サンデル |
| ⑦ | ア | サン=シモン | イ | シモーヌ・ヴェイユ | ウ | ロールズ |
| ⑧ | ア | サン=シモン | イ | シモーヌ・ヴェイユ | ウ | サンデル |

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 5	33	①	3

2015 年本試

問 8 ここで示された疑念は、カミュが小説『ペスト』で探究したテーマの一つである。作中で、人類救済に情熱を燃やすパヌルー司祭は、ペストによる惨状を神の計画とみなし、人類を高めへもたらすものとして、その意義を説く。次の文章は、医師リウーが、そうしたパヌルーの考えを批判した発言である。リウーの考えの説明として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

8

パヌルーは書斎の人です。人の死ぬところを十分見たことがないんです。だから、真理の名において語ったりするんですよ。しかし、どんなにつまらない田舎の司祭でも、ちゃんと教区の人々に接触して、臨終の人間の息の音を聞いたことのあるものなら、私と同じように考えますよ。その悲惨の優れたゆえんを証明しようとしたりする前に、まずその手当てをするでしょう。……人類の救済なんて、大袈裟すぎる言葉ですよ、僕には。僕はそんな大それたことは考えていません。人間の健康ということが、僕の関心の対象なんです。まず第一に健康です。

(『ペスト』より)

- ① 人々にとって病とは、身体の物理的な機能不全にすぎないが、人はともすれば、病を宗教的に意味づけし、勝手な治療を行うのではないか。
- ② 人々にとって何より大事なのは日々の健康であるが、他者の救済を熱望する人は、ともすれば、自己の健康を二の次にしてしまうのではないか。
- ③ 宗教者が唱える愛は、人類全般という抽象的観念に向けられたものであり、具体的な個人への愛とは異なるのではないか。
- ④ 顔の見える隣人に寄り添うことなく、人類救済を語る人は、現在の苦しみを救済へのプロセスと捉え、具体的対処を怠るのではないか。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 1 問	問 8	8	④	3

2014 年本試

問 8 次の文章は、サルトルとカミュの作品と思想とを説明したものである。

～ に入れる語句の組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。

『』のなかで、主人公が公園のマロニエの木を見て、存在の偶然性を発見する場面を描いたサルトルは、第二次世界大戦後、人間について、のあり方を示した。一方、カミュは、『シーシュポスの神話』のなかで、山の上から転げ落ちる岩を運び上げることを無限に反復するシーシュポスの姿を描き、人間の生がであることを示し、そのなかで生き続けることを人間の運命とした。

- | | | | |
|---|--------|------------|-------|
| ① | a 嘔吐 | b 本質に先立つ実存 | c 不条理 |
| ② | a 嘔吐 | b 本質に先立つ実存 | c 苦行 |
| ③ | a 嘔吐 | b 実存に先立つ本質 | c 不条理 |
| ④ | a 嘔吐 | b 実存に先立つ本質 | c 苦行 |
| ⑤ | a 第二の性 | b 本質に先立つ実存 | c 不条理 |
| ⑥ | a 第二の性 | b 本質に先立つ実存 | c 苦行 |
| ⑦ | a 第二の性 | b 実存に先立つ本質 | c 不条理 |
| ⑧ | a 第二の性 | b 実存に先立つ本質 | c 苦行 |

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第4問	問8	36	①	3

2012 年 追試

問 1 下線部 a に関連して、ペスト流行という深刻な災害に見舞われたアルジェリアの街を舞台に、絶望的な状況にあっても、不条理な運命に対して人々が連帯・抵抗し、人間として最後まで誠実に生きることの尊さを小説のなかで描き出した人物を、次の①～④のうちから一つ選べ。 31

- ① トルストイ ② カミュ ③ サルトル ④ サン＝テグジュペリ

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 5 問	問 1	31	②	2

2011 年追試

問 6 次のボーヴォワールによる文章を手がかりに、性をめぐる文化的差異についてのボーヴォワールの考え方として**適当でないもの**を、下の①～④のうちから一つ選べ。

36

まず、こう問うべきである——女とは何か、と。

……人は女に生まれるのではない。女になるのだ。

(ボーヴォワール『第二の性』)

- ① 女とは、男を中心とする社会が「他者」として作り上げた、男にとって好ましいイメージや性質を押し付けられた性である。
- ② 女とは、自然本性として ^{そな}真^なわる「女らしさ」に基づいて、徐々に本当の女へと作り上げられてゆく性である。
- ③ 女とは、文明社会全体が道徳や慣習などを通して、男より劣ったものとして作り上げた性である。
- ④ 女とは、男とは異なった文化的・社会的役割が割り振られることで作り上げられた性である。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 5 問	問 6	36	②	3

問 5 20 世紀フランスの実存主義の哲学者であるシモーヌ・ド・ボーヴォワールの考えを示す記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

32

- ① 歴史の始まりにおいて女性は太陽のような存在であった。本物の人間であった。ところが、今、女性は月のような存在である。他人に依存して生き、他からの光によって輝く、病人のごとき青白い顔をした月のような存在である。
- ② 男性は、対外関係においてたくましく活躍するもの、女性は、受動的で主観的なものである。だから、夫は、自分の現実の実体的生活を、国家や学問などにおいて、外界や自分自身との労苦に満ちた ^{かか} 関わり合いや戦いにおいて営む。
- ③ 男性に好かれ、男性の役に立ち、男性から愛され敬われ、幼い時は育て、大きくなれば配慮を尽くし、助言し、慰め、その生を快い甘美なものにすること、それこそ、いついかなる時にも女性の義務であり、女性に子どもの時から教えるべきことなのである。
- ④ 人間の集団にあっては、何ものも自然のままではない。とりわけ女は、文明がつくりあげたものである。最初から女の運命には他人が介在している。この介在が他の方向でなされていれば、まったく別の結果になっていることだろう。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 5	32	④	3